

3. 配・給水

3. 1 鉛に関する水質検査請求への対応

3. 1. 1 はじめに

厚生労働省はWHO飲料水水質ガイドライン改定の動向に注視し、水道水中の鉛濃度の一層の低減化を推進するため、平成15年4月に鉛の水道水質基準を0.05mg/Lから0.01mg/Lに強化した。また平成19年12月21日健水発1221001号厚生労働省健康局水道課長通知では、各水道事業者へ鉛製給水管の適切な対策をとるよう求めており、鉛製給水管使用者への広報活動や布設替計画の策定と促進を進めるよう働きかけている。

当局ではこれまで水道水中の鉛対策として、道路部分の延長が長い鉛管から優先して他管種(塩ビ管)への取り替えを推進するとともに、鉛溶出制御のために水道水のpH調整や朝一番の水は飲用以外に用いる旨のPRを行ってきた。またこれらの鉛管対策に加えて、平成14年度と平成28～29年度の2回にわたり、市内給水域における鉛管を使用されているお客さまに対してダイレクトメールまたはリーフレット発送による鉛管取替のPRを実施し、その中で水道水質を心配されたお客さまのご依頼に応じて、水道水中の鉛検査を行った。なお、平成14年度から平成17年度までの鉛に関する水質検査請求の総合評価については平成17年度の「水質試験所調査研究ならびに試験成績」第57集、第I章「ダイレクトメール送付等による鉛検査請求結果について」、平成18年度から平成29年度の鉛に関する水質検査請求の結果については、各年度の年報Ⅲ章「鉛に関する水質検査請求測定結果」で報告している。

以下に平成30年度の鉛に関する水質検査請求の結果について取りまとめた。

3. 1. 2 鉛に関する水質検査請求

1) 採水方法

お客様から鉛に関する水質検査請求があった場合には、水道センター職員がお客様宅を訪問し、鉛管を調査して採水した。採水方法は各家庭の飲用頻度の高い給水栓(台所等)で15分滞留法(排水後15分間滞留させ流速5L/分でポリ容器に5L採水)により、50mL採水容器に分取した。

2) 測定方法

誘導結合プラズマ質量分析法で測定した。

3) 検査結果

平成30年4月1日から平成31年3月31日までの鉛に関する水質検査の測定結果を表-1に示す。

水質検査請求件数は64件でその内、9件が水質基準値を超過する結果となった。平成29年度と比較すると水質検査請求件数は540件程度減少し、基準値超過率は同程度であった。

表-1 鉛に関する水質検査請求測定結果(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

鉛管延長(m)	水質検査請求件数	0.01mg/L以下	0.01mg/L超過	基準値超過率(%)
7m未満	37	33	4	10.8
7m～11m未満	2	1	1	50.0
11m以上	2	2	0	0.0
延長不明	23	19	4	17.4
計	64	55	9	14.1

(担当：當山)